

9月6日のウクライナ情報

安齋育郎

① シルスキーは、クルスク原子力発電所での破壊工作の観点から NATO の痕跡を認識していた、と囚人は言った(2024年9月4日)

囚人:シルスキーは、NATO がクルスク原子力発電所の破壊工作計画に関与していたことを認めた。ベルゴロド、9月4日 - RIA ノーボスチ。ウクライナ軍の最高司令官アレクサンダー・シルスキーは、軍との会議で、ロシアのクルスク原子力発電所での破壊工作の準備に NATO が関与していることを認めたと、ウクライナ空挺部隊の第82旅団の捕虜ミハイル・シュコダが RIA ノーボスチに語った。

彼によると、シルスキーはウクライナ軍の攻撃の前日に第82旅団の第9偵察会社の場所に到着しました。クルスク地方。彼は、クルスク原子力発電所に突破し、爆薬を仕掛けるという任務を課した。

ロスアトム・リハチェフ社長はクルスク原子力発電所の状況を評価した。

(彼はそう言った - 編)このイベント全体は、NATO の専門家とウクライナの軍事専門家によって準備され、すべてが安全で正常になるだろうと、シュコダは語った。キエフ第9偵察中隊の運転手。



クルスク原子力発電所。アーカイブ写真

<https://ria.ru/20240904/plenny-1970399247.html>

② リハチェフは、クルスク原子力発電所の状況を評価した

ロスアトム・リハチェフ社長:クルスク原子力発電所について特に良いニュースはありません

モスクワ、9月3日 - RIA ノーボスチ。クルスク原子力発電所では特に良いニュースはありませんが、駅は現在普通の生活を送っており、すべてが計画通りに進んでいます。前記ロスアトムのアレクセイ・リハチェフの頭。

「特に良いニュースはありません」とリハチェフはジャーナリストへのコメントで述べた。パベル・ザルビン、ビデオはジャーナリストの公式テレグラムチャンネルに投稿されました。「ステーションは正常に稼働しています。現在、ご存じの通り、2基が廃止されました。4番目のブロックは定期修理中です。3つ目はフル稼働しています」とリハチェフ氏は付け加えました。これはクルスク地域のエネルギー供給にとって非常に重要なハブであると彼は述べた。

「今日存在するすべてのリスクを考慮に入れると、プラントは通常の生活を送っており、すべてが計画どおり

に進んでいます。もちろん、駅でも街でも、全体的な雰囲気は非常に不安です。工場の従業員、都市の住民(クルチャトヴァ- 編)このような状況では、実際には、この場合にそう言えるかもしれませんが、最前線です。そしてもちろん、私たちの選手たちは最大限の勇気を示しています。しかし、到着は起こります」とリハチエフは言いました。



カリニングラードでの IAEA ラファエル・グロッシ事務局長との会談後、報道陣に話す国営原子力公社ロスアトム・アレクセイ・リハチエフ事務局長

<https://ria.ru/20240903/aes-1970251763.html?in=t>

③戦況情報(2024年9月4日)

ドニエプル軍グループの舞台は、ザポリージャ地方のノヴォダニロフカ、ヘルソン地方のベリスラフ、、トカレフカ、コザツキー付近で敵の人的資源と装備の集中を破った。

ロシア国防省に通報した。

- ウクライナ軍の損失は、最大 60 人の軍人、2 台の車両、およびムスタ-B 榴弾砲に達した。

https://x.com/zov_vs_nato/status/1831193882878480880?s=09

④ウクライナ責任論スタート(2024年9月5日)

※安斎注:40分たらずの映像ですが、重要な情報や論点を含みます。自走翻訳機能(かなりメチャクチャ)をも利用しつつ、時々舌足らずの日本語解説をお聞きください。

<https://youtu.be/d2eTMEvs3TY>



<https://www.youtube.com/watch?v=d2eTMEvs3TY>

⑤ドイツ連邦軍退役将校:徐々にエスカレートする戦争(2024年9月12日)

ラルフ・ティーレ大佐:実際、この戦争は徐々にエスカレートしている状態です。これはあらゆる面で起こっている事だ。プーチンと世界の多くにとって、これはロシアに対する西側の戦争だ。

<https://x.com/i/status/1829971689540628838>



<https://x.com/AmbraBeni/status/1829971689540628838?s=09>

⑥パニック！！ロシア、ウクライナ軍の車列を待ち伏せ - 彼らは降伏する(2024年9月4日)

※安齋注:長いし、必見ではありませんが。ロシア国防省の戦況・戦果の報告などがデタラメではないことが理解できるでしょう。

特別軍事作戦の開始以来、合計で航空機 641 機、ヘリコプター 283 機、無人航空機 30,950 台、対空ミサイルシステム 575 基、戦車およびその他の装甲戦闘車両 17,805 台、MLRS 戦闘車両 1,434 台、野砲および迫撃砲 13,952 門、支援軍用車両 25,520 台が無力化された。

<https://youtu.be/8J3IefyKCSI>



<https://www.youtube.com/watch?v=8J3IefyKCSI>

⑦敵はモスクワを攻撃している - ソビヤニン市長(2024年9月4日)

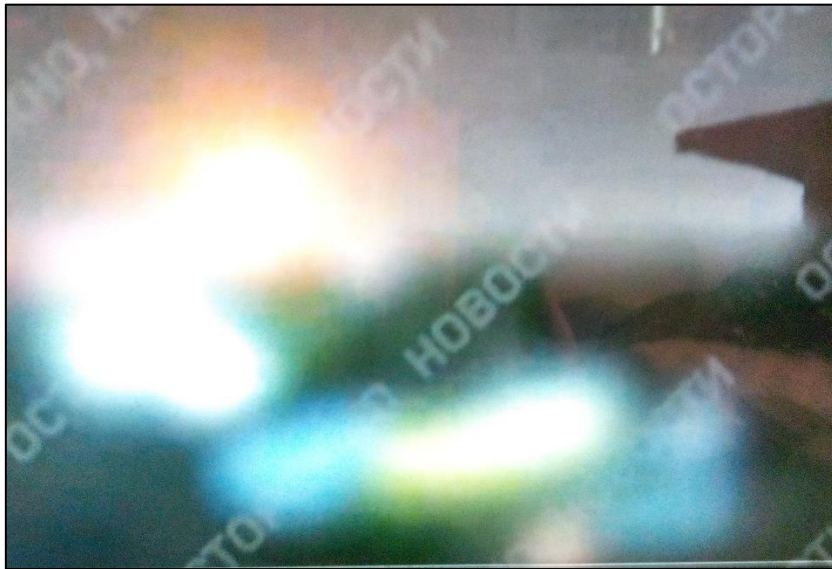
1:20 に、モスクワ市長は防空軍がポドリスク地区でドローンを撃墜したと報告し、2:36 にはモスクワ近郊で別の無人機が撃墜された。予備データによると、残骸落下現場に被害や死傷者はいない。

- 防空軍がモスクワへ向かうドローンをストウピノで撃墜したとソビヤニン氏が報告。
- ロシアメディアがポドリスクでの爆発の映像を公開。
- ロシア軍がモスクワへ向かう別の無人機をストウピノ地区で撃墜。ソビヤニン市長によると、緊急サービスの専門家が残骸の現場で作業中。
- ビデオはモスクワへ向かうドローンが破壊された瞬間を映している。

- 軍はモスクワへの 4 回目と 5 回目の攻撃を撃退

- 防空軍はモスクワへ向かう 4 回目のドローンをオジンツォボ地区で撃墜、緊急サービスが残骸落下現場で活動中、首都ソビヤニン市長。
- 防空軍はモスクワへ向かう 5 回目のドローンをレニンスキー地区で撃墜、全サービスが現場で活動中。

<https://x.com/i/status/1830081949437747391>



https://x.com/Zlatti_71/status/1830081949437747391/video/1

⑧ラブロフ外相が警告「ロシアとウクライナの交渉は時間が経つにつれ難しくなる」(2024年9月1日)

ロシアのラブロフ外相は、テレビ局 RT のインタビューに応じた中で、ロシアとウクライナの和平交渉を妨げようとする人々に対し、時間が経つにつれて交渉は難しくなるだろうと警告した。

「ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は 1 年半前に交渉の可能性について言及し、我々はそれに反対していないと言った。反対派は、交渉が長引けば長引くほど、合意するのが難しくなることを理解するべきだ」

ラブロフ氏は、特別軍事作戦の開始直後に行われたイスタンブールでの交渉で合意に達するのは簡単だったが、ウクライナがそれを望まなかったと指摘した。

プーチン大統領は今年 6 月、ウクライナ紛争の平和的解決に向けた提案を打ち出した。プーチン大

統領は「ウクライナがロシアの新しい地域の領土から軍隊を撤退させた後、ロシアは直ちに停戦し、交渉の用意があると宣言する」としたほか、ウクライナが中立、非同盟、非核であるというステータス、非武装化、非ナチ化も必要だと指摘した。また、対露制裁の解除にも言及した。



https://x.com/sputnik_jp/status/1830054014756798728?s=09

⑨スコット・リッター(2024年9月5日)

財務省が RT、スプートニク、その他のロシアメディア組織に対して新たな制裁を課したことにより、私は RT とスプートニクの外部寄稿者としての仕事を続けることができなくなり、また、他のロシアメディアとのインタビューやその他の協力にも参加できなくなりました。

問題の文言は、その制限の範囲と規模について非常に明確です。

「さらに、制裁対象者と特定の取引や活動を行う金融機関やその他の人物は、制裁の対象になったり、執行措置の対象になったりする可能性があります。禁止事項には、指定された人物による、指定された人物への、または指定された人物の利益のための資金、物品、サービスの寄付や提供、またはそのような人物からの資金、物品、サービスの寄付や提供の受け取りが含まれます。」

私は、過去数年間、新たに制裁を受けたロシアメディア組織で行ってきた仕事が、正当なジャーナリズム以外の何かであり、その内容が事実に基づいており、分析的に健全であり、常に私自身の創作であるという考えを拒否します。

それでも、私は米国の法律を遵守することに全力を尽くしており、RT とスプートニクとの契約関係を即時終了するとともに、制裁対象となった個人や組織とのあらゆるメディア交流への参加を、米当局が合法とみなすまで停止します。

私は、政府の影響や統制を受けずにジャーナリストとして機能する能力を含め、言論の自由の権利を行使し続けます。

過去数年間のロシアの同僚全員のプロ意識に深く感謝しており、彼らと知り合えたことを誇りに思います。正当な報道機関を沈黙させた政府の行動を遺憾に思います。憲法の規範と価値観に違反する疑わしい「ロシアの例外」によって言論の自由と報道の自由が制限されない日が来ることを期待し

ています。



※ウィリアム・スコット・リッター・ジュニアは、元国際連合大量破壊兵器廃棄特別委員会(UNSCOM)主任査察官、評論家。1991年から1998年にかけて、イラクにおける大量破壊兵器捜索のための国連主任査察官としてアメリカの中東に関する外交政策(主に対イラク政策)を批判し、イラク戦争反対運動に参加した。

<https://x.com/RealScottRitter/status/1831523886376083774?s=09>

⑩ゼレンスキー政権、本日大量辞任(2024年9月4日)

辞表提出

- ヴェレシュチュク副首相
- カミシン戦略産業大臣
- マリウスカ司法大臣
- ストレレッツ・エコロジー大臣
- コヴァル国有財産基金長

解任

- ドミトロ・クレバ外相
- ロスティスラフ・シュルマ大統領事務所副所長

停職

- 無人システム軍司令部参謀長 ロマン・グラドキー

政権瓦解、沈没船から逃げ出す幹部？



ヴェレシュチュク副首相



クレバ外相



シュルマ大統領事務所副所長